

A 「フィリピンの少女ピアのスピーチから考えよう」

■スピーチの背景

「子ども買春」という言葉を知っているかな？これは、子どもの性を売りものにしたり、それを買って子どもを性的に虐待したりする行為のこと。児童労働のなかでも、性の対象として子どもを働かせたり、売りものにしたりすることは「最悪の形態の児童労働」とされ、子どもにとって非常に危険で有害な仕事と考えられている。日本など先進国にもある問題だけど、とくにまずしい国々では、自分の意思によらず、悪いおとなに売られたり、家族のために働かなくてはならなかったりして、大勢の子どもが性的虐待の被害に遭っている。

ピアはフィリピンの首都マニラの貧困地域で生まれた。両親は正式な夫婦ではなく、貧しさのためにピアを育てることはできなかった。そんな境遇のピアを不憫に思ったお婆さんがスラム街にあった家にピアをひきとった。でも、一緒に住む叔母さんは「自分の食費ぐらい稼いでこい」と命令し、ピアは幼い頃から物乞いなどをして働いた。小学校に入学したものの、稼がないと怒られるピアは学校を休みがちになり、勉強についていけず小学2年生で退学。そして8歳の時、悪いおとなにだまされて、外国人相手にからだを売る仕事についた。その外国人の中には日本人もたくさんいたという。その後、NGO(※注)に保護されたピアは施設でくらしながら、心とからだの傷をいやしていった。一時はすべて自分が悪かったのではと思いつめ、自殺まで考えたけれど、子どもの権利があることを知り、悪いのは自分ではないと気づいた。

※注：開発、貧困、平和、人道、環境等の地球規模の問題に自発的に取り組む市民中心の非営利組織

■ピアのスピーチ

私はピア・コーベラ、15歳です。フィリピンから来ました。今日は私が体験した性的虐待や性的搾取についてみなさんにお話しします。

私がこんなに大勢の方の前で話す日が来るとは、小さいころには夢にも思いませんでした。小さいころに育ったスラム地域から大きくなって出ることはないだろうと思っていたのです。私は両親のことを良く知りません。私はスラム地域(貧困地域)の祖母の家で叔母と、いとこや異母兄弟と暮しました。その家には全く愛がありませんでした。子どもの頃のことと言えば、いつも誰かがどなったり叩いたりする音ばかりが思い出されます。私は虐待を受けて育ったと言ってよいでしょう。叔母はよく私をどなりつけ、家族のためにお金を稼いで来い！と言いました。だから私は4歳の頃から路上で物乞いをしたり、洗車をしたり車の見張りをしてお金を稼ぎ始めました。

8歳になると、ひとりの女の人がやってきてある仕事を私に紹介しました。「この仕事はたくさんお金を稼げる秘密の仕事だ。誰にも仕事のことを話しちゃいけないよ」とその女性は言いました。私はどんな仕事なのか想像もつきませんでした。とにかくやってみることにしました。なぜなら、家族、特に祖母のためにお金を稼ぎたかったからです。でもそれは、外国人観光客相手に

体を売る仕事、買春でした。私はこうして外国人から性的虐待を受けることになったのです。虐待はずっと続きました。体の調子が悪くても、休むことはできず、病院で治療を受けることもほとんどありませんでした。毎日、毎日、外国人男性を相手に、働かなければいけませんでした。いったい何人の外国人観光客を相手にしたか数えられないほどでした。仕事をあつせんする女性は、私をいつも見張って、働かないととても怒り、言うことを聞かないと警察に捕まえてもらおうと脅しました。子ども心に、私がやっていることはいけないことだと思って仕事をやめたいと思っていましたが、そこから逃れられませんでした。だから自分に言い聞かせました。「これは、お婆ちゃんのためなんだから仕方ない」と。お金を稼ぐために働きました。

本当は、学校に行つて勉強を続けたかった。でも、毎日働くようになり学校に行けなくなって小学校3年生にはあがらず学校をやめました。しかし、私が12歳の時に状況は一変しました。あるドイツ人によって私はホテルに何日も監禁され虐待を受けていましたが、若いフィリピン人少女と白人の成人男性と一緒にホテルに宿泊しているのはおかしいと思った地元の人が、警察に通報し警察がホテルにやってきました。私は最初、とうとう警察に捕まってしまったと思い、怖くずっと泣いていました。しかし、その後 NGO(民間団体)のスタッフがやってきて、私にこう話しかけました。

「ピア、今まであなたに起きたことは、本当に辛く大変だったわね。でも、あなたは全く悪くない。あなたには子どもの権利があり、虐待や搾取、暴力から守られる権利があるの。そして、あなたには教育を受ける権利もある。だから、あなたの権利が守られるように私たちが運営する施設に来ない？これから安心して施設で暮らしていいのよ」と。
この言葉はとても嬉しく、初めて私は自分を取り戻したように感じました。

こうして、私はようやく地獄のような仕事から解放されました。そして、NGOが運営する施設で暮らすことにしました。小学校2年生までしか学校に通ったことがなく、人生をあきらめていましたが、NGOに助けられ、今は中学2年生に編入することができました。将来は、子どもを助ける仕事に就きたいと思っています。

最後に、虐待などに悩んでいるみなさん「一人で悩まないで下さい。どうか勇気を出して信頼できる友人やおとなに相談して下さい。一緒にたたかきましょう。私がいつもみなさんのそばにいます。」